

遺物三次元計測の実験的試行

山田梨紗子・福井知樹

目次

1. はじめに
2. 考古遺物における三次元計測の現状と問題点
3. 三次元計測の方法
4. 手実測と三次元データ
5. おわりに—今後の課題と展望—

— 論文要旨 —

近年、三次元計測の技術が急速に進んだことで博物館や研究所、さらには都道府県・市町村の教育委員会でも三次元データの作成が普及してきている。考古学界では従来、遺構や遺物は手測りで行われてきたが、レーザーキャンやフォトグラメトリによる三次元計測を用いた遺跡や遺構、遺物の三次元データ化が進められている。博物館や研究所、教育委員会などではそのデータをインターネット上で一般公開し、専用のソフト無しでも閲覧できる試みを行っているところもあり、文化財に触れるための新たな方法も生まれている。

また、研究や調査の手法においても三次元計測が進んでおり、当協会においても令和4年（2022）に三次元解析ソフトウェアが導入され、遺構・遺物の実測図作成について試行錯誤を繰り返している。

本稿では、遺物に焦点を当てて、三次元計測の現状と課題、またこのソフトウェアを用いた三次元データと従来の手測りの実測図を比較しながら、三次元計測の長所と短所について考えていく。

——— キーワード

三次元計測 三次元データ Metashape GigaMesh 一石五輪塔 石臼 瓦 陶磁器 近世 近代